

雜 錄

**始政四十周年記念臺灣博覽會開催通知** 同博覽會は來る十月十日より開會にて同會長平塚廣義氏より案内狀到來せり其全文次の如し。

謹啓益々御清穆之段奉賀候 陳者今秋十月十日より十一月二十八日まで五十日間本島に開催の始政四十周年記念臺灣博覽會は主たる會場を臺北市及郊外草山溫泉地に設置し更に島内主要都市に各地方特色を發揮する特設館を設け本島文化並に産業進展の現勢を紹介すると共に廣く南支、南洋、滿鮮等の外地及内地道府縣よりの資料を多數展示するものにして各方面に亘り不尠御参考と相成るべく存ぜられ候而て目下各地よりの出品物も各方面の御援助によりて續々到着致し本會開催の諸準備亦着々進捗中に有之候 就ては本島として此の際全國同胞各位に對し帝國南方經營の實情に關する再認識を冀求するには絶好の機會かと思料せられ候島民亦擧つて出来る限りの御便宜御取計可申上候間御關係筋を可成的多數御誘ひ合せの上是非共御來會の榮を蒙り度 以書中御依頼申上度如斯御座候

追而會期中は自然船車旅館等相當混雜を豫想せられ候に付御來會の場合は豫め御人數御日程等概略本會事務局宛御通知被下候はば夫々手配致し置き可申候 敬具

昭和十年 月 日

始政四十周年記念臺灣博覽會 會長 平塚 廣義  
日本鐵鋼協會々長殿

**英國鐵力板 1934 年の貿易事情** (Iron & Coal Trades Rev. Jan. 11, 1935) 英國の昨年の鐵力板工業は別に目覺ましい復活を示した譯ではなく又その貿易に於ても製鋼業の場合に於けるが如き伸展を見せたと云ふ譯でもなかつた。然しながら各種の事項に於て發達の著しいものが認められ、此が爲に斯業の將來に就いては大いに期待し得られるものがある。斯業の組織は國內、國際兩方面に於て改善せられる所があつた。南ウェールズに於ける團體化は更に一步を進め、現在に於ては鐵力板生産業者の主要な三團體が形造られ、その生産高は全國生産高の大部分を占めてゐる。昨年の統計は未だ完備してゐないが恐らく生産高は前年度よりも幾分の減少が想像せられ、輸出高も亦少なからざる減少を示してゐるものと見られてゐる。然しながら斯業が主として對外貿易に依存する點から觀れば、克くその地位を維持したと云つてよい。

11ヶ月間の統計を基礎として概算すれば 1934 年全年の輸出高は 1933 年の 453,294t 及 1932 年の 463,191t に比し約 373,000t に減少した。生産高の減少は輸出高の減少に比すれば非常に輕少ではあるが是は國內市場の活況に起因するものである。國內罐詰工業の鐵力板消費高は主として國産罐詰協議會の努力に依つて著しい増加を示すに到つた。

1934 年には市場の統制と價格の安定とを目的とする國際協約が成立し、英、米、獨、佛、伊の製造業者は或る一定の割合に於て輸出貿易を分割することに同意したが、それと同時に Bristol Channel Ports 渡 (FOB) 1 箱 18 志 2 片の最低價格が決定された。ウェールズの輸出業者は輸出貿易の難件に當面したとは云つても若し國際協約の成立を見なかつたとしたならば貿易高の減少はより一層大なるものが有つたであらう。

競争諸國は近年著しい輸出増加を示すに到り、獨逸の如きは 1929

年に於ては僅に 30,000t を輸出したに過ぎなかつたが 1933 年には 126,000t に増加し、又合衆國に於て見るに 1929 年から 1932 年の間に於ては爲替相場の不利に依つて對外貿易は非常に減退してゐたが、1933 年には一擧に増加し、昨年初頭に於ては更に増加の歩を辿りつゝあつた。斯の如き理由で合衆國昨年の輸出高は 1933 年の 100,000t 弱に對し約 190,000t に達したのであつた。又佛蘭西は 1933 年の 37,000t に對し昨年は 65,000t の輸出をした。故に輸出高の減少を示したのは獨り英國のみであつたのであるが、前にも云つた通り國際協約が無かつたとしたら英國の事情は更に一層の悪化を呈したものと見られる。

1935 年即ち本年に於ける斯業の運命を卜することは困難であるが、昨年中の英國の鐵力板工業が一段とその基礎を固めたことは否定されない事實である。然しながら世界鐵力板消費高の大部分を製造した昔日の地位に立返ることは恐らく有り得ないだらうと思はれる。何となれば經濟的自給自足の域に達せんとする諸國の要望は鐵力板需要の全部を外國に仰いでゐた國々を驅つて斯業の基礎を對立せしむるに到り、加ふるに競争相手國は對外貿易の維持に益々懸命の努力を傾けるに到つたからである。 (M. M 生)

**鋼の用途様々** ("Steel" July 8, 1935) ペンキ噴霧機に鋼の使用——ペンキ及エナメル噴霧機製造に各種の鋼材が使用される。この方面に毎年消費さるゝ鋼の大部分は噴霧室 (spray booths) 建造用に向けらるゝものであるが噴霧機其者にも亦相當量の鋼が消費される。噴霧機の販路は相當に廣く裝飾並防護塗料を必要とする多くの品物の製造業者を得意先に持つて居る。噴霧機は建物の内外を塗被するに際しペンキ刷毛の代りに用ひられる。自動車工業 (主として車體建造部) は噴霧機の最大使用者の一である。

噴霧機に不銹鋼の使用——噴霧機は主としてブロンズとアルミニウムから出來て居り胴體と型打火造ブロンズ (drop forged bronze) のエアーノズル (air nozzle) から成りこれにダイキャストアルミニウム (die cast aluminum) のハンドルが附て居る。然し最新型のものに於ては流體ノズル (fluid nozzle) と針狀瓣 (needle valve) とは不銹鋼で出來て居る、これはガラス質のエナメルの場合に於て特に激しい噴霧の磨耗作用を防止する爲めである。此の主要部に對する不銹鋼の使用は其の壽命を著しく延長し又高壓で噴霧機の作業を可能ならしむる。此の目的に對する不銹鋼の消費高は年約 15t と見積られる。壓力タンク及移動噴霧機は大部分鋼で作られて居る。壓力タンクはペンキ或はエナメルを間斷なく噴霧する爲めに使用されるものであつて通側内外を亜鉛鍍したる 5, 10, 15, 30, 或は 60 ガロン能力の繼目無引抜鋼管で作つてある。

附屬品の鋼の使用——移動噴霧機の大きさは様々であつて、モーター又は内燃機關と壓縮機とが備へ付けてあるが是等は形押鋼の底枠の上に又最大のは鋼製四輪トラックの上に載せてある。噴霧室は通例亜鉛引薄鋼板とアングル鋼とで作つてある。その大きさは多様であるが最大のは幅約 12ft, 高さ 9ft, 奥行 18ft である。其の他の附屬品、例へば壓縮タンク、轉向臺等にも鋼が使用される。

(M. M 生)

**歐米鐵鋼界近狀** (British Iron & Steel Federation "Statistical Bulletin" May, 1935.) I. 英國——英國 5 月の銑鐵生産高

は 558,900t で 4 月の 526,300t 及び 1934 年 5 月の 527,900t に比すれば相當の増加を示し其の日産率は前月の 17,543t から 18,029t に上つた。一方 5 月の鋼産額は 853,300t で年産 10,000,000t 以上の生産率を示し 1929 年秋以來の最高レベルに達した。對外貿易は漸増の傾向を續け 5 月の輸出高は前月より 3,000t を増して 213,900t に達した。本年最初 5 ヶ月間の輸出高は前年同期に比し 15% の増加を示した。5 月の輸入高は 86,400t で最低レコードであつた 4 月の數字に比すれば稍々大ではあるが昨年どの月の數字に比べても著しい減少である。

119,148 人の従業員を僱役する 147 社から接受した報告に依れば職工一人當 1 週平均所得高は 4 月 3 磅 1 志 4 片、3 月 3 磅 2 志 10 片、2 月 3 磅 2 志 7 片であつた。

2. 國際鋼カルテル——國際鋼カルテル本年第 2, 4 半期に對する輸出豫定噸數は次の如く減額された。

半製品	(月)	260,000t から	240,000t へ
市場向棒鋼		155,000t から	150,000t へ
形鋼		130,000t から	120,000t へ
ユニバーサルプレート		13,500t から	11,000t へ
厚板		90,000t から	80,000t へ
中板		9,000t から	8,000t へ

波蘭は最近國際線材シンヂケートに加入したが其の結果或る市場に於ては既に價格の値上りを見るに至つた。又目下國際軌條製造業者組合に波蘭を加入せしむる問題に關し商議が進められて居る。獨逸紙 Bergwerks Zeitung の社説に曰く「白耳義と國際鋼カルテルとの間に成立した一協約に依り白耳義は英國市場に對する販賣數量を減ぜられた理合せとして、アウトサイダーとの競争特に激甚なる輸出市場の擴大を許さるゝことになるだらう。白耳義の生産業者はベルガの下落と勞力費の低廉とで獨佛に比し一層價格の値引に應じ得る有利な地位にある」。此の點に關し將來白耳義の販路が擴大さるゝ市場として特に印度が擧げられて居るが印度市場では目下英日及大陸間に激しい競争が演出されて居る。

3. 獨逸——5 月の銑鐵市場は鑄物工場の消費高増加に依つて稍々活況を呈したが半製品の市場は前月と變る所なかつた。月末日本からビレット及びシートバーの注文が増加した。鐵道材料の市場は國有鐵道の購入高減少に依つて前月より不活潑であつた。形鋼の製造業者は建設工業方面の需要増加に依り前月に引續き多忙であつたが尙和蘭及丁抹に對する輸出も増加した。棒鋼市場も活況を呈し取引噸數の増加に加へ契約期間も長くなつた。ストリップ市場も棒鋼と同様の傾向にあつた。厚板の國內需要は依然として好調を保ち一方輸出は丁抹、諾威及和蘭との取引増大に依り著しく好轉した。線材の季節的活況は本年に入つても引續き従つてワイヤー市場に於ても一般的に活況を呈して居る。獨逸の鐵鋼業は今後出來得る限り輸出貿易に突進するであらうと報ぜられて居る。其の國內取引には對外貿易で蒙つた損失を償ふに足る程の活況來の徴候は見へない。鐵鋼業が目下物々交換の形で取引する對外貿易の百分比は驚く程大であつて次に示す通りである(數字は本年 3 月の分)。

銑鐵 80%、半製品 20%、鑄鐵管 40%、ジョイスト 30%、バー、アングル及チャンネル 35%、フープ 60%、プレート 15%、薄板 40%、鋼管 60%、鐵道材料 20%。

目下獨逸の物々交換に依る主なる輸入品は南阿及アルゼンチンの羊毛、ブラデルの綿及珈琲、智利の硝石及銅、メキシコの大麻等であるが此の外ブルガリヤ、ポーランド、スペイン、ノールウェイ及埃地利とも相當大なる物々交換が行はれて居る。

4. 佛蘭西——フランス 5 月の鋼取引は幾分好轉したが然し主としてコンムトカの統制下にあらざる特殊品に關するものであつた。普通の市場向棒鋼の需要は依然不活潑で而も注文は大抵迅速なる引渡を要求せるものであつた。プレート及チューブ、ストリップに對する露西亞の注文は厚板及帶鋼工場に幾らか活況を與へたが全體から見て輸出貿易は稍々好轉したとは云へ多くの製鋼所に於ては最近増設した設備を働かした期間はほんの短い間に過ぎなかつた。

5. 白耳義及ルクセンブルグ——5 月の鐵鋼取引は稍々減じた。南米市場は最も活況を呈し瑞典からも可なり注文があり、伊太利からは約 20,000t の半製品、日本からは線材の注文があつたと報ぜられて居る。内外市場に於ける棒鋼の需要は減じたが建築工業からの形鋼の注文は近く増加するものと見られて居る。プレートの需要は依然として思はしくない。薄板の價格は外國との競争に依つて下押一方であつたが然し受註高は數週前より増大した、これは特に此の方面に關し國內取引の増大に恵まれた佛蘭西の製造業者が輸出市場から手を引いた爲めである。國內の鋼價格には別に値上りは見ないが白耳義の炭價は可なり引上げられた。6 月及 7 月の工業用輸出炭價は 4 月の最低價より 10% 高となり尙 8 月分に對しては現在の炭價より 20% の値上を發表された。國內炭價に於ても同様の引上を見られると思はれる、従つて工業製品の價格も當然値上るものと見なければならぬ。

6. 合衆國——製鋼作業率は 5 月中漸減一方で目下能力の 40% 以下にある。自動車工業及び冷蔵庫製造業者に依るストックの清算と著しい季節的影響に依る其他の品物の清算は N. R. A の失敗に基く價格崩壊の恐れと相俟つて新取引の流れをせばめたのであつた。

亞米利加鐵鋼協會に於ては強硬なる決議書を發表して以て既に廢棄となつたスチールコードの公平なる競争規約並賃銀及作業時間の規程を尙引續き自發的に遵奉するやう全國製鋼會社に呼びかけた。これが爲め各會社自儘の價格切下が全工業の價格組織を危殆に陥らしむると云ふ危惧は茲當分除かれて居る。合衆國には錫の供給に對しては外國の資源に仰がねばならぬと云ふ懸念がある、故に錫力板屑の輸出禁止法案が議會に提出されたが又政府に於てはニッケル、マンガン、クロム等の軍用材料の供給確保手段を講ずるやう勸奨する所あつた。

(M. M 生)

#### 蘭印に於ける金物類の輸入制限(商工省貿易局通報第 450 號)

蘭印政府は、今般次記金物類の輸入制限を公布せるが、其實施期間、輸入許可量等の次の如し。

(イ) 實施期間 1935 年 7 月 24 日より向ふ、10 ヶ月

(ロ) 輸入許可量 (單位 1,000 kg 風袋共)

統計番號	品目	輸入許可量
1. 鐵及鐵合金		
690	鐵板類 (色塗り又は卑金屬を塗附したるもの)	55,000
693	鐵棒 (同上)	
694	鐵梁 (同上)	
695	鐵輪 (ワスを塗附せるもの)	
696	其他の鐵輪	3,000
697	鐵筋	
702	鐵管 (鑄物)	6,000
703	其他の鐵管	
708	屋根葺亞鉛引鐵板	15,000
710	亞鉛引鐵槌	
713	壁、床、破目用鐵板	

716	鐵	線	}	5,500	
717	電	燈用鐵線			
718	針	金類(卑金屬を塗布したるもの)			
719	其他の特殊の垣根用針金			}	
721	鐵	網			
723	釘	類(樽入り)			
724	釘	類(箱入り)			
725	釘	類(其他包装入)			
726	螺	旋	}	1,600	
727	鐵	製ボルト			
2. 銅及銅合金					
757	赤	銅板	}	1,600	
760	黃	銅及ブロンズ板			
764	赤	銅製電線			
765	其他の赤銅線				
766	黃	銅線			
768	黃	銅製網			
773	螺	旋			
775	特記せざる銅の粗製品			}	500
776	特記せざる銅の精製品				
3. 亜鉛及亜鉛合金					
808	亞	鉛棒板		365	

(ハ) 國別割當なし。

(昭和 10 年 7 月 23 日東京着在バタヴィア越田總領事來電)

**蘭印に於ける鐵鋼輸入制限** (商工省貿易局通報第 453 號) 蘭印政府は鐵鋼輸入制限繼續の爲法令第 342 號を以て更に新政府令を公布し 8 月 1 日より實施せり。要領次記の通。

記

1. 實施期間 自 1935 年 8 月 1 日 至 1936 年 7 月 31 日 1 箇年
2. 許可數量 37 萬 kg

尙爪哇は自給自足の状態にあるを以て以上數量は外領にのみ輸入を許可する旨經濟省より發表ありたり。

**英國鐵鋼筒管類其他に對する輸入稅改正** (商工省貿易通報第 454 號) 次記の通輸入稅改正、何れも 8 月 3 日より實施の旨發令せらる。

1. 各種鐵鋼筒管類 (water syphon 用 steel bulb を除く) 噸當りの價格 13 磅以下のものは每噸 5 磅、13 磅以上 15 磅を越えざるものには噸當り價格と 18 磅の差額、價格 15 磅以上のもの及鑄物、筒管類には現行稅 2 割据置。

2. nozzle 又は其の他の附屬の有無を問はず、一部護謨製の tubing 及 piping (但し全部に互り針金又は金屬片にて保強せるもの

を除く) には 1 封度付 1 片半、又は從價 2 割の何れか高き方。

3. 金屬製 eyelet (open end のある管狀 rivet 及長靴 hook を含む) には 1,000 箇に付 3 片、又は從價 2 割の何れか高き方。(東京着昭和 10 年 8 月 3 日在倫敦朝日商務參事官代理來電)

**英國當業者の國際鐵鋼カルテル加入問題** (商工省貿易局通報第 457 號) 國際鐵鋼カルテルと英國當業者間の鐵鋼協定は、6 月 4 日ルクセンブルグの會議に於て大綱上の意見一致し、爾來各部内より委員を設け、4 月末日成立の暫定的取極の完了する 8 月 7 日以後の事態に對處する爲、細目の協議を重ね來れる處、今般次記要項に基く 5 ヶ年間の取極正式に成立せり。

1. 8 月 8 日より向ふ、12 ヶ月間、カルテル國よりの英國輸入數量は 67 萬噸を超へざること、第 2 年目より 4 ヶ年は 52 萬 5,000 噸を限度とすること。

2. 第 1 年に於ける讓歩の代償として、第 1 年中のカルテル國輸出總數量が 1934 年の全數量を超過したる場合は、其の超過量の 3/4 (14 萬 5,000 噸を限度とす) は英國の輸出に割當らるべきこと。

3. 輸出數量の割當協議は各部門に分ち繼續すること、若し本年末迄に相互に満足なる輸出協定出來ざる時は、本協定及附帶協定は 3 ヶ月の豫告を以て終止し得ること。

4. 本協定は英國輸入稅を從價 2 割以下に引下ぐること、及本協定に依る英國市場(輸)入を有効に調節する機關を設くことを條件とすること。

本協定實施 3 年後、6 ヶ月の豫告を以て脱退し得ること前報の通り、又カルテル國よりの對英各種品輸出割當に付ても、内部的了解成立したる由にて、今後英國を含むカルテル國は本協定に基き協同して輸出市場の調節及開拓に當るべしと言ふ。(東京着昭和 10 年 8 月 2 日在倫敦朝日商務參事官代理來電)

備考 昭和 10 年 6 月 19 日附同局通報第 295 號參照。

**獨逸國の鋼管工場新設禁止令續行** 獨逸經濟大臣は 1934 年 8 月強制カルテル法に従ひ、鋼管製造工場の新設を禁止、同禁止令は 1935 年 6 月末失効の筈なりし處、今回更に新なる命令により 1936 年 12 月 31 日迄延期せられたり。

客年の此禁止令の目的は鋼管工場の新設を防止すると共に、他の壓延工場が新に鋼管製造を開始するを禁ずるに在りたり、之以前鐵鋼業は既に獨逸鋼材組合内の生産範圍保護協定により各生産業者による新製品の製造を禁ぜるも、此協定は 1935 年 1 月期間満了し、其後假延期を見たるに過ぎず、更に前記禁止令が續行せらるゝに至れる他の一原因としては、國際鋼管カルテルの解消の爲め顯著となりたる世界市場の競争により、獨逸鋼管工業が相當の犠牲を餘儀なくせしめられたる事實を指摘し得べし。(以上在獨、長井大使館商務書記官報告) (外務省通商局日報 172 號)

## 昭和10年外國銑輸入高表 (單位噸)

(銑鐵共同販賣會社)

月次	輸 出 國 名						其 他	計
	印 度	英 國	獨 逸	米 國	瑞 典	露 國		
1	25,349	102	—	204	5	—	17,876	43,534
2	24,737	203	—	—	—	—	14,835	39,075
3	26,934	203	102	15	605	—	14,148	42,007
4	13,946	102	125	—	—	—	19,721	33,921
5	19,879	91	—	211	—	—	44,730	64,911
6	19,724	51	—	—	—	45,938	6,303	72,016
計	129,867	752	254	430	610	45,938	117,613	295,464

## 主要製鐵所に於ける昭和10年6月分鐵鋼材生産高調 (單位噸) (商工省鐵山局)

種 別	6 月 分			累 計			%
	昭和10年	昭和9年	増 減	昭和10年	昭和9年	増 減	
銑 鐵	172,657	162,697	9,960	1,046,261	948,441	97,820	10
普 通 鋼	52,573	37,574	14,999	299,912	230,434	69,478	30
販賣向鋼片	368,947	313,303	55,644	2,248,105	1,821,645	426,460	23
販 賣 向 シ ー ト 鋼	12,421	—	—	23,029	—	—	—
	9,476	8,708	768	61,488	45,528	15,960	35
販 賣 向 鋼	1,452	—	—	6,363	—	—	—
	19,630	9,105	10,525	105,728	75,449	30,279	40
鍛 鋼	470	—	—	484	—	—	—
	5,202	5,181	21	23,848	32,244	△ 3,396	△ 10
壓 延 鋼 材	283,758	321,046	△ 35,288	1,787,707	1,500,640	287,067	19
	349	—	—	349	—	—	—
普 通 鋼 壓 延 鋼 材 内 譯							
厚 0.7 耗 以 下 の 鋼 材	33,536	34,136	△ 600	176,695	148,854	27,841	18
其 他 の 鋼 板	61,203	57,003	△ 4,200	265,376	303,179	60,397	19
軋 力	7,874	5,052	2,822	47,003	23,119	23,884	103
棒 鋼	65,571	105,349	△ 39,778	462,500	369,738	92,742	25
	349	—	—	349	—	—	—
形 軌 鋼	37,282	40,351	△ 3,069	246,336	203,607	43,729	21
	29,657	30,232	△ 573	176,851	179,375	△ 2,524	△ 1
線 鋼	34,541	33,333	1,208	203,939	188,680	15,259	8
	11,762	12,104	△ 342	86,752	63,210	23,542	37
其 他	4,332	3,486	846	24,055	20,858	3,197	15

備考 △印は生産減を示す。

## 昭和10年5月中重要生産月報抜萃 (商工大臣官房統計課)

品 名	生 産 額	5 月 中	前 月 中	前 年 同 月	1 月 以 降 累 計	
					昭 和 10 年	昭 和 9 年
金	(gr)	1,526,252	1,393,614	1,162,982	6,935,860	5,900,428
銀	(gr)	21,475,025	20,102,971	17,154,602	98,670,109	86,837,774
銅	(kg)	5,824,505	5,829,772	5,115,389	28,921,873	27,730,672
鉛	(kg)	622,132	607,540	550,314	2,848,942	2,768,589
錫	(kg)	2,593,741	2,507,375	2,657,059	12,519,583	12,159,953
亜鉛	(kg)	143,948	145,507	84,282	698,573	388,433
硫酸	(t)	12,793	12,065	10,565	59,247	48,633
硫酸	(t)	100,077	99,924	89,119	509,476	444,706
鐵	(t)	466,093	442,845	449,679	2,088,853	2,109,641
鐵	(t)	70,393	76,906	74,434	363,899	299,358
石 油 (原 油)	(t)	2,958,448	2,882,553	2,872,840	14,563,265	14,453,937
石 油 (原 油)	(100)	244,313	265,834	187,935	1,286,047	875,000

内外最近刊誌參考記事目次

**Blast furnace and steel plant, June, 1935.**

- Precision mills for rolling strip, Bars and Rods. S. M. Weckstein. p. 390.
- Economic importance of Replacement of obsolete equipment in steel mills. D. M. Petty. p. 395.
- Sheet and Tube's strip mill in operation. Charles Longenecker. p. 399.
- New English Sintering plant. p. 404.
- The brickmason and the brick. Henry D. Tyson. p. 408.
- Colloidal Treatment of boiler Feedwater J. S. Merry. Part II. p. 411.
- Oxygen for the blast furnace. J. R. Miller. p. 413.
- The effect of Roll diameter in the Rolling of sheets. W. Trinks. p. 415.

**Blast furnace and steel plant, July, 1935.**

- Defects in strip from continuous mills. T. N. Keelan. p. 461.
- Modern steels and weight Reduction. J. C. Whetzel. p. 464.
- Finishing the heat of steel. J. H. Hrusken. Part 33. p. 469.
- The brickmason and the Blast furnace. Henry D. Tyson. Part 2. p. 472.
- Automatic control of metallurgical Furnace. J. K. Mawka. p. 475.
- Economic importance of replacement of obsolete equipment in steel mills. D. M. Petty. Part 2. p. 477.
- A Power factor analogy. D. J. Bolton. p. 479.
- Slag control in Rimming steel. L. F. Reinartz. p. 481.
- Deflection of Rolls. J. S. Caswell. p. 483.

**Iron and Steel Industry, June and July, 1935.**

- The deflection of the rolls in plate, sheet and strip mills. J. S. Caswell. p. 347.
- Modern Rolling mill construction. W. W. Franklin. p. 351.
- Producer gas. F. Johnstone Taylor. p. 376.
- The heat treatment of cast Iron. J. E. Hurst. p. 382.
- Steel Castings with special reference to alloy steels. p. 396.

**Archiv für das Eisenhüttenwesen, Heft 12, Juni, 1935,**

- Beitrag zur optischen Temperaturmessung von flüssigen Eisen und stahl. Friedrich Blaurock. s. 517.
- Ueber den Fehler bei der quantitativen Spektral-analyse des Systems Eisen-silizium. Günter Scheibe. s. 533.
- Der einfluss der Legierungselemente auf die Umwandlungen des Austenits und die Festigkeitseigenschaften legierter stähle bei gestufter Vergütung. Heinz Döpfer. s. 541.
- Ein neuer Doppeljoch-Magnetstahlprüfer. Fritz Stablein. s. 549.
- Uebergangsgefüge bei der Schmelzschweissung mit austenitischen zusatzwerkstoffen. Franz Rapatz. s. 555.
- Das System Eisen-Kobalt-Zinn. Werner Köster. s. 557.
- Röntgenuntersuchungen an  $\alpha$  Eisenmagnet-legierungen. Richard Glocker. s. 561.
- Anlaufzeit der Austenitumwandlung. Erich Scheil. s. 565.

**Stahl und Eisen, Heft 24~28, 1935.**

- Die Reduzierbarkeit von Dwight-Lloyd Sinter und deren Anpassung an den Erzmöller. Grethe, Kurt. s. 641.
- Ausführung und Bewährung von Rollenlagern, Bauart Schöpf im Walzwerksbau. Schöpf Anton. s. 648.
- Internationale Uebersicht über die Kartellgesetzgebung. J. W. Reichert. s. 653.
- Die berufliche und soziale Gliederung des deutschen Volks. Bauer Willy. s. 665.
- Ausführung und Bewährung von Rollenlagern im Walzwerksbau, Bauart Vereinigte Kugellagerfabriken. A.-G. Jürgensmeyer Wilhelm. s. 670.
- Die Eisenerzvorkommen der Eisenwerkgesellschaft maximilianshütte, Rosenberg. Namacher Norbert. s. 693.
- Ausführung und Bewährung von Rollenlagern. Bauart Timken, im Walzwerksbau. Doughty Eldred Herbert. s. 695.
- Walzwerk für starke Feinbleche und dünne Mittelbleche grosserer Längen. Krämer Wilhelm. s. 732.
- Zur Normung einer kleinen Kerbschlagprobe. Mailänder Richard. s. 749.
- Neuzeitliches Stabstal- und Drahtwalzwerk. Wegmann Ludwig. s. 754.

**Die Giesserei, Heft 13~14, 1935.**

- Bericht über die Hauptversammlung des Vereins deutscher Giesereifachleute. am 1. 2. und 3. Juni. 1935 in

- Berlin. s. 301.
- Verfahren zur Beurteilung von Formsanden nach der Korngrößenverteilung. Blütmann. s. 307.
- Neue Wege der Druckluftherzeugung. G. A. Langen. s. 308.
- Die Giessereimachinen auf der Leipziger Frühjahrsmesse, Th. Geilenkirchen. s. 310.
- Ueber elektrische Widerstandsmetalle. Alfred Schulze. s. 312.
- Die amtlichen Gebühren für deutsche Patente und ihre stundungsmöglichkeiten. s. 344.
- Zur umwandlung der Kapitalgesellschaften. Arthur Starke. s. 345.
- Die mechanischen Eigenschaften von Gusseisen bei höhern Temp. E. Piwowarsky. s. 325.
- Neue Druckluft-Pressformmaschine. Weil Frankfurt. s. 333.
- Windzuführung durch kleine Düsen in den Schacht von Kupolöfen oberhalb der Schmelzzone. Carl Rein Hannover. s. 335.
- Oberflächenuntersuchungen in der Giesserei. Gerhard Stade. s. 339.

(鈴木)

**電氣評論 第 23 卷 第 7 號**

- 空氣濕度調整法に就て 木原 克己 (715)
- アルミニウムの電氣精鍊 井上 春成、北川 二郎 (725)
- 電弧銲接用としての水銀及タンガー整流器 岡本 越、蓼原 泰彦 (735)

**日本航空學會誌 第 2 卷 第 6 號**

- 7 氣筒星型航空發動機の主控合棒の受ける曲げモーメントに就て 神藏 信雄 (751)

**エンヂニヤリング Vol. 23, No. 7**

- Nickel 合金鑄鋼に就て 藤原 唯義 (258)
- 特殊鑄鐵に就て 大西信三郎 (268)

**機械學會誌 第 38 卷 第 219 號**

- 微量變位の一測定裝置に就て 砂谷 智導、松山 徳藏 (470)
- 燒入鋼の腐蝕割れと燒割れに就て 萩原 巖 (474)
- 引張試験に生ずる星形破面に就て 萩原 巖、太田 雞一 (475)
- 粘性流體の廣がり細まり流れに於る速き並に壓力に就て 宮津 純 (479)
- 高速度鋼の新處理法に就て 世良田健一 (481)

**金屬 第 5 卷 第 7 號**

- 金屬材料學の立場から見たアルミニウムの製鍊 大日方一司 (259)
- 鋼に就て 佐々木新太郎 (265)
- 鑄鐵の曲げ試験に現はれる降伏現象に就て 池田 正二、岡村 健二 (281)

**電氣化學 第 3 卷 第 7 號**

- 結晶硫酸銅の煅燒並に浸出實驗 平社敬之助 (266)
- アルカリ金屬の分析 加藤多喜雄 (276)

**石炭時報 第 10 卷 第 7 號**

- 石炭坑内に於けるメタン瓦斯の發生と其の流動に就て 佐山 總平 (2)
- 米國に於ける炭業統制の成立と其挫折 齋木 三平 (29)

**滿洲鑛業協會々報 第 1 卷 第 5 號**

- 滿洲の鑛産資源を原料とする各種工業の展望 (1)
- 本溪湖煤鐵公司廟兒溝鐵山の擴張計畫 (4)
- 滿洲石油株式會社大連製油所概要 (9)

**外務省通商局日報 第 154 號**

- 亞鉛鐵板需給狀況 (印度) (1046)

**日本ニツケル時報 Vol. 3 No. 3**

- 自動車構造用のニツケル合金 ジェームス・エー・ラビット (292)

**研究報告 (三菱重工業株式會社名古屋航空機製作所)**

- 昭和 10 年 6 月
- 球吹付に依る金屬成品の表面硬化 (其の一) 石澤 命知、尾形 康夫 (287)
- 水上機機體鐵鋼部分塗粧法の一比較試驗 池田 傳、安江 正二 (312)

青化鹽浴による各種鋼の硬化 尾形 康夫 (318)  
 鑄物砂と輕合金の鑄肌の關係 河口虎夫、大内卯之吉 (324)  
 AR 合金鋼の試験 矢野 勝 (330)  
**滿洲の發明** 第1卷 第4號  
 輕金屬工業と發明 大日方一司 (43)  
**造船協會會報** 第56號  
 不銹鋼の電氣銲接 佐々木新太郎 (47)  
 二次元彈性問題に於ける特異性 奥田 克己 (65)  
 軸壓縮を受ける薄肉平面壁プロフィール柱の各種のへし折れ強度と重量最小の條件に就て 倉西 正嗣 (127)  
 圓及び渦巻弧から成る断面主體の捩り應力 澤田 正雄 (145)  
**電氣製鋼** 第11卷 第7號  
 砂鐵鑄滓の異相平衡論的研究 福島 政治 (351)  
 マンネスマン鋼管穿孔壓延方法の發明と技術上の發展(其の二) 小島 義正 (372)  
 熱源としての電弧に就て 林 達夫、野田 浩 (388)  
**研究報告**(住友伸銅鋼管株式會社) 第2卷 第4號  
 タングステン鋼に於ける安定炭化物 WC の成生に就て 小島 義正 (241)  
 航空機用としてのクローム・ヴァナヂウム鋼管及プロペラー・ハブに就て(第2報) 絹川武良司 (282)  
 耐酸銅合金“AR”に關する二三の實驗 小磯 五郎 (294)  
 マグネシウム合金板の食鹽水に依る腐蝕 五十嵐 勇 (302)  
 マグネシウム合金の防蝕に就て(其4) 五十嵐勇、中田兵次 (310)  
 眞鍮管の内應力と耐時期割性(第3報) 田邊友次郎 (311)  
 デュラルミン時効硬化の一考察 田邊友次郎 (315)  
**マツダ研究時報** 第10卷 第2號  
 コルハート、ブロック(Corhart block)が硝子製品に及ぼしたる現象に就て 不破 橋三 (5)  
 炭化タングステン合金ダイアロイの結晶構造に就て 野中 到 (13)  
 眞空中に於て金屬表面鏡を作ることに就て 淺尾莊一郎 (26)  
**採鑛冶金月報** 第13年 第7報  
 亜鉛電鍍用のアルミニウム電極に就て 仲田 旭 (180)  
 1931年より1933年迄の歐米に於ける冶金術の發達  
**朝鮮鑛業會々報** 第151號 金龍震 (3)  
**燃料協會誌** 第154號 第14年7月號  
 獨逸に於けるベンゾール回收工業並にコークス工業の發達 ハー・イビング (836)  
**商工省貿易局通報** 第40及50號 昭和10年7月29日 蘭印に於ける金物類の輸入制限 (1)  
**燃料研究所報告** 第31號 揮發油の合成 第1號 全卷  
**九州帝大工學彙報** 第10卷 第2號  
 回轉軸の捩り振動に於ける摩擦抵抗 江島 武夫 (90)  
 ボルトに生ずる應力に就て 久保 潔 (101)  
**日本鑛業會誌** 第51卷 第603號 昭和10年7月  
 釜石鑛山の「シュリンケージ」採鑛法 渡邊 武 (413)  
 鋼索の兩曲げ應力に就て 水田 準一 (425)  
**日立評論** 第18卷 第7號  
 電氣計器の機械的壽命 沼倉 三郎 (1)  
 電氣計器の最近の趨勢 豊田 博司 (7)  
 精密電氣器具の信頼度 橋本 眞吉 (11)  
 パイロメーター及抵抗溫度計 北川 榮 (29)

日立自働溫度調節器 山本英四郎 (35)  
**水曜會誌** 第8卷 第8號  
 燐による青銅の脱酸に就て  
 金屬及び合金の脱酸及び瓦斯の除去の機構に關する研究 第5報 西村 秀雄 (751)  
 工業用マグネシウム合金の研究(II) 澤本 八衛 (763)  
 熱間壓延鋼の帶狀組織(Banded Structure)が各種熱處理による變化に就て 土居 寧文 (769)  
 岩石の爆破度に就て 高橋 基一 (775)  
 閃亜鉛鑛の浮選に對する鑛液の水素イオン濃度及各種化學試薬の影響(第III報) 山田賀一、柳澤哲雄 (779)  
 方鉛鑛の浮選に對する鑛液の水素イオン濃度及各種化學試薬の影響(第IV報) 山田賀一、船越丈一郎 (787)  
**外務省通商局日報** 第127號 昭和10年8月2日  
 獨逸の鋼管工場新設禁止令續行 (1139)  
**大日本鑛業協會雜誌** 第43集 第512號  
 2CaO·Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub> の存否に就て 近藤清治、山内俊吉 (15)  
**電氣評論** 第23卷 第8號  
 アルミニウムの電氣精鍊 井上春成、北川二郎 (828)  
 交流電弧の安全度と周波數との關係 岡本 越、蓼原泰彦 (835)  
 電弧の安定度に關する實驗 實藤修作、松尾 清 (845)  
**北光** 第39號 昭和10年7月10日  
 炭塵の沈降劑に就て 米澤治太郎 (10)  
**研究報告**(三菱重工業會社名古屋航空機製作所) 昭和10年7月  
 空氣燒入鋼に對して表面硬化の及ぼす影響 石澤命知、尾形康夫 (1)  
 白色合金の落錘試験 須永 信二 (7)  
 軸承用輕合金の比較 尾形 康夫 (34)  
 鋼球吹付により硬化せしめたる滲炭硬化層の燒戻に就いて 石澤命知、尾形康夫 (47)  
 高 Ni-Cr-W 大洲田鋼の鍛造溫度と衝擊抗力との關係 關口 次郎 (386)  
**理化學研究所彙報** 第14輯 第8號  
 アルミニウム皮膜の三相交流重體電解に就いて 宮田 聰 (651)  
 低溫度に於ける磁鐵鑛の變態に就いて 庄司 彦六 (679)  
 ベリウムに關する研究 ベリウムの分析法 飯高一郎外2名 (741)  
**外務省通商局日報** 第167號 昭和10年8月7日  
 英國の各種鐵鋼管類其他に對する輸入稅改正令(8月6日著在英、朝日大使館商務書記官電報) (1157)  
**工業化學雜誌** 第38編 第8冊 第450號  
 石炭完全ガス化の研究(第8報) 並河 孝 (934)  
 石炭乾溜速度が生成コークスの燃焼性に及ぼす影響  
 石炭完全ガス化の研究(第9報) 並河 孝 (941)  
 石炭乾溜速度ガス生成コークスの燃焼に依る發生溫度上昇に及ぼす影響  
**滿洲鑛業協會會報** 第1卷 第6號  
 熱河鑛業事情 幸丸 政和 (4)  
 滿洲國に燃料異變 (34)  
 新邱炭礦の埋藏量 (34)  
 昭和製鋼所落成とその影響 (35)  
 昭和製鋼所の増産 (35)  
 昭和製鋼所の製鋼初輸出 (35)  
 滿鐵アルミ工業化 (37)  
 撫順工場アルミナ檢出成功 (37)